

## この後で我々に何が書けるというのだ？

————— F.シューベルト

オーケストラを凝縮した究極の室内楽、弦楽四重奏。2挺のヴァイオリンとヴィオラ、チェロという極めてシンプルな編成が生み出す無限の可能性に、歴代の大作曲家は惹かれていった。

このジャンルを最初に広めたのはハイドンだ。「弦楽四重奏曲の父」が残した全68曲にはモーツァルトも大いに触発され、彼もまたこの魅惑の編成による多くの作品を残した。そしてモーツァルトからパトンを引き継ぎ、挑戦、確信、苦悩、祈念、喜び…弦楽四重奏はありとあらゆる情感を、信じられないほどドラマチックに表出することができる—交響曲と同等な程に—そのことを世に知らしめたのが、楽聖・ベートーヴェンである。

ロシアのウィーン大使であったラズモフスキー伯爵から依頼された第7番～第9番の「ラズモフスキー弦楽四重奏」で、当時の弦楽四重奏曲とは一線を画す規模、構成、表現を実現。また通常4楽章形式で作曲されるこのジャンルにおいて第13番は6楽章、第14番は7楽章、第15番は5楽章（ベートーヴェンの最後のまとまった作品である弦楽四重奏曲第16番では4楽章に回帰する）など様々な革新的な試み、壮大な音楽性は当時の聴衆には賛否を二分することもあったが、時代とともにゆるぎない評価を獲得。このジャンルにおいて彼はまさに金字塔を打ち立てたのだ。

音楽に限らずありとあらゆるものが多様化し、故に迷いがちになる昨今だからこそ、ベートーヴェンの中～後期弦楽四重奏を、あえて聴きたい。日本の音楽の歴史そのものでもある神奈川県立音楽堂で、現代の音楽界を牽引する男たち4人で編成したYAMATO String Quartetが演奏するというこれ以上ない舞台が整った今回、人類史最高の傑作群が「芸術とは何か、人間とは何か」を、時代を超え、現代の私たちに力強く語りかけてくれるはずだ。

### より深くお楽しみいただくために—

◆各日1:00pmよりチェロの阪田宏彰による聴きどころのプレトークがごございます。

◆集中力を維持するために「大フーガ」を除く各曲間に休憩をはさみます。

◆開演前の時間をゆっくりくつろいでいただくため各開演1時間前に開場いたします。

(ロビーのみのご案内の場合もごございます)

# 不滅の金字塔—ベートーヴェンの弦楽四重奏

## 【第1回】

### 《ロシアの薫り/ラズモフスキー》

2020

**4/19** (日) 1:30pm開演  
4:00pm頃終演予定  
(12:30pm開場 ※1:00pmよりプレトーク)

### 弦楽四重奏曲 第7番 ハ長調 op.59-1

#### 「ラズモフスキー第1番」

(1806年作曲 約40分)

### 弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調 op.59-2

#### 「ラズモフスキー第2番」

(1806年作曲 約36分)

### 弦楽四重奏曲 第9番 ハ長調 op.59-3

#### 「ラズモフスキー第3番」

(1806年作曲 約32分)

## 【第2回】

### 《中期から後期へ/ハープ&セリオーソ》

2020

**5/17** (日) 1:30pm開演  
3:45pm頃終演予定  
(12:30pm開場 ※1:00pmよりプレトーク)

### 弦楽四重奏曲 第10番 変ホ長調 op.74

#### 「ハープ」

(1809年作曲 約30分)

### 弦楽四重奏曲 第11番 ハ短調 op.95

#### 「セリオーソ」

(1810年作曲 約20分)

### 弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 op.127

(1825年作曲 約40分)

## 【第3回】

### 《ベートーヴェンの苦悩/大フーガ》

2020

**6/28** (日) 1:30pm開演  
3:45pm頃終演予定  
(12:30pm開場 ※1:00pmよりプレトーク)

### 弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 op.132

(1825年作曲 約45分)

### 弦楽四重奏曲 第13番 変ホ長調 op.130

(1825年作曲 約43分)

### 大フーガ 変ホ長調 op.133

(1825年作曲 約16分)

## 【第4回】

### 《最晩年/芸術の昇華～跡を継ぐもの》

2020

**9/6** (日) 1:30pm開演  
4:15pm頃終演予定  
(12:30pm開場 ※1:00pmよりプレトーク)

### 弦楽四重奏曲 第14番 嬰ハ短調 op.131

(1826年作曲 約38分)

### 弦楽四重奏曲 第16番 ハ長調 op.135

(1826年作曲 約25分)

### シューベルト作曲

### 弦楽五重奏曲 ハ長調 D.956

(1828年作曲 約60分)

### ゲスト・チェロ:小川和久

## YAMATO String Quartet プロフィール



### 石田泰尚 Yasunao Ishida (Violin)

神奈川県出身。国立音楽大学を首席で卒業、同時に矢田部賞受賞。新星日本交響楽団を経て、2001年より神奈川フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コンサートマスターに就任。以来「神奈川フィルの顔」として現在までその重責を担っている。これまでに神奈川文化賞未来賞、横浜文化賞文化・芸術奨励賞を受賞した。神奈川フィルや各地のオーケストラとソリストとして共演し、全国でソロコンサートも行う。幅広いレパートリーを誇るソリストとしての顔も持つ。自身がプロデュースした男性奏者のみの弦楽アンサンブル「石田組」、新しいスタイルのピアノを追及した「トリオリベルタ」、ピアニスト及川浩治の呼びかけで結成されたピアノトリオ「Bee」、CoolなメンバーによるHotなステージの「Super Trio 3°C」など、様々なユニットでも独特の輝きを見せる。その豊かな音楽性は「繊細で優美な音楽をさらにきめ細やかに表して、浄化された深い詩情が香り立つ魅惑的な演奏」（音楽の友）など各方面から高く評価されている。録音も多く2016年発売の「石田泰尚/LIVE」、2017年発売の「ALLBRAHMS LIVE」は共にレコード芸術誌上で準特選、さらに石田組デビューアルバム「THE石田組」は特選盤の評価を得た。使用楽器は1690年製G.Tononi、1726年製M.Goffriller  
公式サイト <http://musiciansparty.jp/artist/ishida/>



### 執行恒宏 Tsunehiro Shigyo (Violin)

東京藝術大学付属高校を卒業後、同大学に入学。在学中より演奏活動をはじめ、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者に就任。後に同楽団コンサートマスターを2006年まで務める。現在東京ニューシティ管弦楽団コンサートマスターを務めると同時に、国内主要オーケストラのゲストコンサートマスターとしても活動している。東京オペラシティでのリサイタルの他、各地のオーケストラと協奏曲を共演するなどソリストとしても活躍、またYAMATO弦楽四重奏団他のメンバーとして室内楽も積極的に取り組んでいる。これまでに、浅川多美子、鷲見康郎、澤和樹、小林健次の各氏に師事。



### 榎戸崇浩 Takahiro Enokido (Viola)

1988年名古屋市長立立川高等学校音楽科にヴァイオリンで入学。第44回全日本学生音楽コンクール名古屋大会第1位。92年東京音楽大学特待生としてヴィオラ専攻で入学。93年摂津音楽祭リトルカメリアコンクール第3位。96年第66回読売新人演奏会に出演。関東主要オーケストラに客演首席奏者として出演。97年に読売日本交響楽団入団。首席代行を務めた。現在は、同団ヴィオラ奏者として、またアンサンブル奏者、ドラマ、CM、ゲーム等のレコーディング奏者としても活躍している。



### 阪田宏彰 Hiroaki Sakata (Violoncello)

国立音楽大学卒業。YAMATO弦楽四重奏団代表。喜多直毅とTANGOPHOBICSメンバーとして「TANGOPHOBIA」「Concet in MORIOKA」をリリース。Cello Ensemble 008代表。CD「Cello Ensemble 008 vol.1」「Cello Ensemble 008 vol.2」をリリース。多くのグループでリーダーを務め、個性的なメンバーの特質を生かしたプロデュースを得意とする。群馬交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、神奈川フィルハーモニー、山形交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団などの客演首席奏者を務めてきた。桜美林大学非常勤講師。ホームページ「TUNE THE CELLO!」<http://candi.sakura.ne.jp/>



### 小川和久 Kazuhisa Ogawa (Violoncello)

(9/6シューベルト作品のみ)  
11歳よりチェロを始める。桐朋学園女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部を卒業し、フランス国立ポルドー音楽院へ留学。高等科、室内楽科、現代音楽科、研究科を首席で卒業し、ポルドー市栄誉賞を受賞した。2000年には第4回「若手奏者のためのコンペティション」(現・名古屋国際音楽コンクール)ソロ部門にて優勝。最優秀者賞、朝日新聞社賞も併せて受賞。国立ポルドーオペラ座、ラムルー管弦楽団と特別契約を結び共演したほか、現代音楽グループ「Csellox、TACLOA」を結成し、フランス、スペインを中心に演奏活動を行い、多数のコングレスにも参加。アンサンブル・インストゥルメンタル・ドゥ・コルス(コルスカ)の首席奏者を務め、2011年4月から山形交響楽団の首席奏者に就任した他、プレジャス・カルテット、チェロロックトリオ・カンターナ、長岡京室内アンサンブル、山形チェンバーミュージシャンズなど、ソロ、室内楽でも幅広く活躍している。これまでに千本博愛、Etienne PECLARDの各氏に師事。

## 会場：神奈川県立音楽堂 (JR・市営地下鉄「桜木町駅」徒歩約10分・紅葉坂)

料金(消費税込)：4公演セット券11,000円 一回券料金：全席指定4,000円 シルバー(65歳以上)3,800円